

センター試験 「漢文」 解説速報

【解説】

難易度はほぼ平年並み。問2のAがちよっとひねってあって、やや難しかったほかは、特にひっかかるような問題はなかった。例によって、文章全体の意味がつかめるかという読解力が勝負の分かれ目。授業で数をこなしてきた諸君には、さほどむずかしくはなかったはずである。

問1 ア「中」は動詞だから「的中・命中」の意味の「あつ」であることはいうまでもない。選択肢をみるとその意味に合致するのは「毒にあたる」の⑤「中毒」しかない。

イ「師」に軍の意味があることは授業でもやった。軍隊の規模によって大きい方から「軍・師・旅」となる。したがって①「師団」が正解。

問2 A「何ぞ其れ暴にして不敬なるや」「何ぞ…や」の形であるから、まず要求されるのは疑問か反語の判断である。文末が「連体形+や」であるから、形の上からは疑問で①である。しかし、ちよっと待て。以下の文を見ると、「吏に命じて誅せんとし」、「左右が諫めた」とある。とすると疑問ではおかしい。では反語だろうか。反語だとすると⑤のような意味になってしまい、王が怒るのはおかしい。とすると残る可能性は③の詠嘆しかない。というわけで、ただ句形を覚えてただけでは解けない設問。「疑問・反語・詠嘆」は基本的に同型であり、シチュエーションによって意味が変わるという基本を忘れないこと。

B「此れ必ず故有り」直訳は「これにはきつと理由がある」。何の理由かは、文意を考えれば、⑥とわかる。

問3 消去法で不適なものを除いてゆけば、難しくはない。あとの弟の弁明を見れば、②と④であることはすぐにわかるであろう。

問4 「愚心」の「愚」は謙讓表現。前後の文を考えれば主体は「臣の兄」すなわち「申公子培」である。「愚心」の内容は、当然再読文字「将」がかかっている以下の文章から「王の身の安全と長寿」で、③となる。

問5 当然使役の構文であるが、下に接続詞「而」があるので、助動詞「令」がどこまでかかっているかを問う問題。「発」には「開発」というように「開く」の意味がある。文意を考えれば、「書庫を開いて見させた」のでなければ意味が通らない。したがって、②が正解。

問6 問3と同様、弟の言葉から⑤が正しいことはすぐわかる。②③④はあきらかに誤り。残る①と⑥であるが、⑥は「弟が古い記録を見つけ出した」というところが誤り。したがって、もうひとつは①である。

【書き下し】

荆の莊哀王、雲夢に獵し、随兕を射て之に中つ。申公子培、王を劫かして之を奪ふ。王曰く、何ぞ其れ暴にして不敬なるや、と。吏に命じて之を誅せしめんとす。左右の大夫皆進み諫めて曰く、子培は賢者なり。又王の百倍の臣為り。此れ必ず故有らん。願はくは之を察せよ、と。三月を出でずして、子培疾みて死す。荆師を興して兩棠に戦ひ、大いに晋に勝つ。歸りて有功者を賞す。申公子培の弟、進みて賞を吏に請ひて曰く、人の功有るや、軍旅に於いてす。臣の兄の功有るや、車下に於いてせり、と。王曰く、何の謂ひぞや、と。對へて曰く、臣の兄は暴不敬の名を犯し、死亡の罪に王の側に触れたり。其の愚心は將に以て君王の身に忠にして、千歳の寿を持たしめんとせしなり。臣の兄嘗て故記を読みて曰く、随兕を殺す者は三月を出でず、と。是を以て臣の兄驚懼して之を争ふ。故に其の罪に伏して死せり、と。王人をして平府を發きて之を視しむるに、故記に於いて果たして有り。乃ち厚く之を賞す。

【現代語訳】

荆の莊哀王が雲夢（湖北省）に遊獵して、随兕を射たところ命中した。すると申公子培が王を脅かして随兕を奪い取ってしまった。王は、「何と粗暴で無礼なのか」と言つて、役人に命じて培を殺そうとした。側近の大夫たちは皆進み出て、王を諫めて言つた、「子培は賢者です。さらに王にとつては大変忠実な臣下です。これにはきつと理由があるはずですよ。どうかそれを察してください」。

三ヶ月も経たぬ内に、子培は病気で死んだ。

荆は軍を興して兩棠の地で戦い、晋に大勝した。戦から帰ると功のある者に褒賞を行った。申公子培の弟が進み出て、褒賞を役人に請うて言つた、「人は戦争へ出陣して功を立てましたが、私の兄は王のお側にいて功を立てました」。王が「どういう意味か」と問うと、お答えして言うには、「私の兄は暴不敬の汚名を着せられ、王のお側で死刑に値する罪に触れました。しかし彼の真意は、主君の身に忠誠を尽くそうとし、長寿を保たせようとしたのです。兄は以前古い記録を読んでいて、『随兕を殺した者は三ヶ月以内に死ぬ』とあるのを見ました。だから兄は王が随兕を射たことに驚懼して、それを奪い取ったのです。そこでその随兕を殺した罪に伏して死んだのです」。王が人をやつて書庫を開けて調べさせると、はたして古い記録にそのようであった。そこで手厚く褒賞を与えたのであった。